

指定管理者評価表

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立文化館	
(2) 施設の設置目的	
市民に美術作品等の鑑賞の機会及び発表の場を提供し、もって市民の芸術文化の振興に寄与すること。	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成26年4月1日から平成31年3月31日まで（5年間）	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること ・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること ・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること ・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること ・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと ・作品等の活用、適正な整理・保管及び調査・研究等を行うこと 	
(7) 有料施設の有無	
有（利用料金制）	
(8) 公募・非公募の別	
<p>非公募</p> <p>（非公募の理由）</p> <p>堺 アルフォンス・ミュシャ館は故土居君雄氏から寄贈されたアール・ヌーヴォーの代表画家アルフォンス・ミュシャの初期から晩年期にわたる作品を約500点所管している。さらに、一般貸出できるギャラリーでは、堺市所蔵美術作品展や堺市展など、市の芸術文化施策と密接に結びついた事業を体現する場として活用されている。これらは市の貴重な財産である所蔵作品に関する調査・研究業務及びそれらの作品を活用した展覧会等の企画・実施を行ってきた学芸員が、継続的に業務を行ってきた成果といえる。特に市の所蔵作品資料に関しては、その重要性を十分に理解し、市の意向を汲んだ取扱いができる管理者が不可欠であり、そういった点も踏まえ総合的にみて、文化館は長期的・継続的な視点に基づいた管理運営がなされるべき施設である。</p> <p>堺市文化振興財団は「市民の文化活動の振興を図り、地域文化の創造に努め、市民生活の向上と地域の発展に寄与すること」を設立目的とした市の出資法人であり、これまでもその特性を活かし、市の文化施策を反映した多彩な事業を市内の各文化施設で展開してきたと同時に、平成18年度からは文化館の指定管理者として、設置目的に即した管理方針に従って、適正な管理運営の確保、利用者サービスの向上への取り組み、収支の実績において確実な成果をあげている団体である。また、文化館の特性を理解し、適切に業務を遂行することのできる、柔軟な対応に長けた団体である。</p> <p>これらの点を踏まえ、効率的かつ柔軟なサービスの提供ができる指定管理者として堺市文化振興財団に随意指定するものである。</p>	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
無	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

東京におけるミュシャ展の活況を利用したの関西圏JR車内吊タイアップポスター掲出など新手法の広告活動に着手した。館玄関での企画展告知壁面ラッピングを実施し、SNS用写真スポットとしても活用され、無償による広報手法の一つとすることができた。また、アンケート分析により、来館者属性に着目したデジタル映像広告に重点的な露出を行った。

(2) 利用者サービス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	50,138	50,528	31,398	40,216	/
イ 稼働率 (%)	62.4	45.3	45.1	47.3	
ウ 利用者満足度 (%)	95.8	95.8	97.0	94.8	

「利用者サービス」における市による状況分析 利用者数については、休館期間にもかかわらず前年度を上回ることができた。一方、稼働率については、前年度を上回ったものの冬季の低迷を克服できなかった。

(3) 収支状況(単位:円)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
ア 収入	指定管理料	77,586,195	79,481,042	80,365,042	80,762,924	79,600,000
	利用料金	11,958,960	10,939,000	7,863,620	9,221,700	10,000,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	201,029	119,896	355,901	131,000	0
合 計		89,746,184	90,539,938	88,584,563	90,115,624	89,600,000

イ 支出	人件費	30,910,188	28,610,357	23,664,645	24,513,243	23,388,000
	委託料 ()内は総支出額に占める委託料の割合	20,279,515 (23.1%)	21,562,999 (25.3%)	22,596,765 (25.4%)	22,662,430 (26.0%)	24,782,000 (27.7%)
	その他経費	36,436,666	35,073,169	42,626,376	40,088,622	41,430,000
合 計		87,626,369	85,246,525	88,887,786	87,264,295	89,600,000
利用者一人当たりの支出額		1748	1687	2831	2170	—

ウ 収支差額	2,119,815	5,293,413	-303,223	2,851,329	0
--------	-----------	-----------	----------	-----------	---

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
------------	---	---	---	---	---

オ 徴収委託の場合の徴収額	—	—	—	—	—
---------------	---	---	---	---	---

「収支状況」における市による状況分析 来館者数の増加に伴う利用料金収入の増収により、収支を黒字に転じることができた。

3 目標管理、評価等

(1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	利用者満足度	(設定理由) 施設の管理運営状況を把握する指標の一つであると考えられるため。														
	目標	90%	(設定理由) 基本協定書において市が求める水準														
	実績	94.8%	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。														
<table border="1"> <caption>利用者満足度 (2024年度～2029年度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年度</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>92.6%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>97.0%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>94.8%</td> </tr> </tbody> </table>				年度	満足度 (%)	24年度	94.8%	25年度	92.6%	26年度	95.8%	27年度	95.8%	28年度	97.0%	29年度	94.8%
年度	満足度 (%)																
24年度	94.8%																
25年度	92.6%																
26年度	95.8%																
27年度	95.8%																
28年度	97.0%																
29年度	94.8%																

平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	館内案内サインの表現・デザインを統一し来館者の視認性を高めるとともに、ピクトグラムや英語表現に加えバリアフリー化の配慮も行った。
---------------------------------------	--

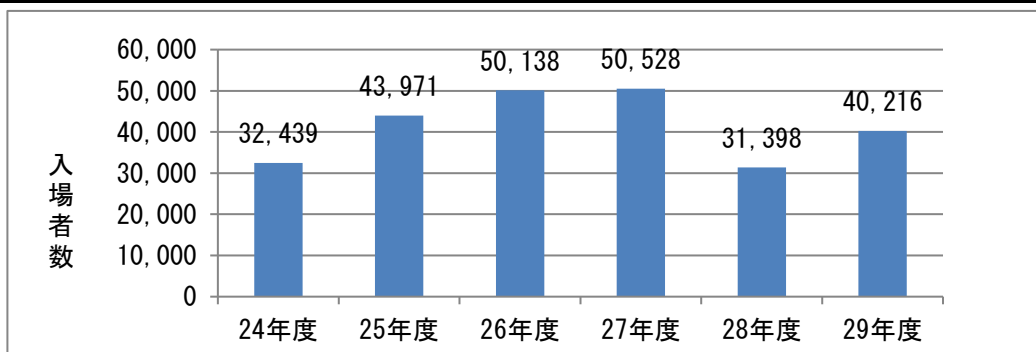
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	年齢確認を行わなかったことによる料金の誤徴収が発生。ご本人に謝罪するとともに、受付方法の再確認及び業務関係者全員が共有するマニュアルを策定し、今後の発生防止策を構築した。
-----------------------	---

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B	B	B
	具体的な理由	施設管理や接客対応等全般的に満足いただいているが、ミュシャ館における企画展「図案のすすめ ミュシャとデザイン」のテーマがやや専門的イメージが強かったためか、高齢者層の来館が鈍ったと考えられる。自主事業についてはたいへん好評で、満足度向上に資した。	企画展「図案のすすめ ミュシャとデザイン」については、ターゲットを絞ったテーマ設定を行ったという意味で評価できる。自主事業については、企画展のテーマに沿い、且つ参加者の興味を引くような内容を考案できている。	
対応策等	引き続き、職員一同が施設の良い管理運営・自主事業に取り組み、利用者の安全確保とより高いサービスの提供に努める。来館者視点を意識することを再確認し、受容されやすいテーマ設定や告知表現の作成を図る。	作品の魅力を引き出し、且つ受容されやすい企画展のテーマ設定について一層の研究を行うとともに、より効果的な告知方法についてもさらなる分析に努められたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	入場者数	(設定理由) 施設の利用しやすさや施設で行う事業の魅力を反映する指標の一つであると考えられるため。
	目標	35,000人	(設定理由) 平成29年度事業計画の目標
	実績	40,216人	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項

広報宣伝活動を重点施策として取り組み、積極的な情報発信を行うとともに、他施設との連携、優待契約先への告知依頼、リピーター割引制度の活用などに努めた。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

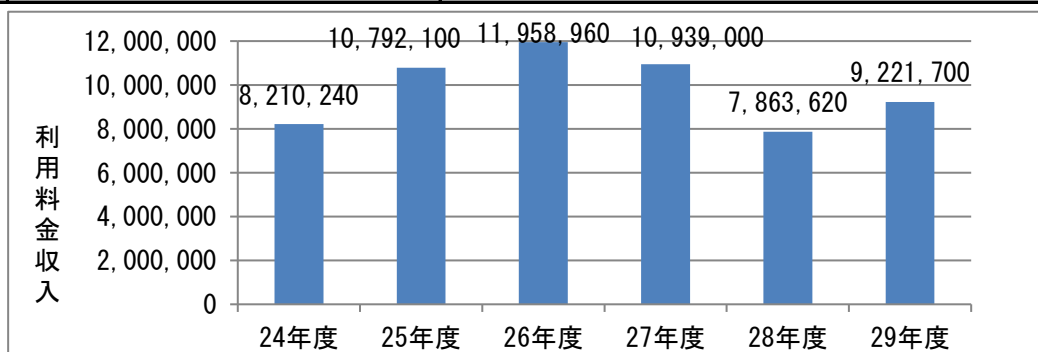
堺市駅からの来館時に館の存在が分かりにくいとの意見に対し、視認性を高めるために、館の玄関壁面に大型サインシートで企画展ポスターと同内容の掲出を行った。

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	B		B	
	具体的な理由	国立新美術館におけるミュシャ展の好影響を当初より意識し、デジタルビジョンへの集中投下やFacebookの活用など告知宣伝の拡充・刷新を図った。ギャラリーの1～3月における低稼働率をカバーできず、年間稼働率の低下に繋がった。		ミュシャ展の影響を意識した上で戦略的な広報活動を行うことにより、3か月の休館期間があったにもかかわらず、前年度の実績を上回ることができたと考える。一方、ギャラリーの稼働率については、冬季に毎年低迷するものの克服できていない。	
対応策等	ミュシャ館については、来館者分析による効率的な広告手法をとり集客増に努める。ギャラリーについては、冬季の利用促進に繋がる積極的な広報活動と集客力の高い自主事業展開、来場者増に向けた広報強化を図る。		ミュシャ館については、費用対効果の高い広告手法について分析し、来館者数の向上に努められたい。ギャラリーについては、冬季利用の促進について、集客力の高い事業の誘致を積極的に図るなどの対策を講じてもらいたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 施設の利用しやすさ、または施設で行う事業の魅力を反映しやすい指標の一つであると考えられるため。
	目標	年度750万円以上	(設定理由) 基本協定書において市が求める水準の75% (工事による休館のため開館9か月)
	実績	9,221,700円	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項

経営効率の一層の向上を図るため、コスト削減に向けて光熱水費の節約や工夫による修繕料の圧縮など、利用者に影響を及ぼさない範囲で取り組んだ。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

特になし

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B	A	
	具体的な理由	ミュシャ展の好影響を反映し、9か月の開館期間で、観覧料収入は28年度(10か月開館)から約122万円の増収となり、ギャラリーの使用料収入は28年度から約14.4万円の増収となった。	ミュシャ館観覧料については、来館者数の増加に伴い大幅な増収を達成することができた。また、ギャラリー使用料については、2か月の休館期間及び冬季の稼働率低迷があったものの、前年度の実績を上回ることができたことが評価できる。	
対応策等	観覧者数の増維持に向けた広報活動等の拡充を図る。また、ギャラリー利用者の新規獲得に向けた活動の拡充と自主事業の充実を図り、稼働率向上に向けた取り組みを実施する。	一層の効果的な広報活動や利用者ニーズに合致した事業展開を図り、来館者の増加及びギャラリー利用の促進を図り、利用料金収入の増加を図ってもらいたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの